寳月　誠教授
略歴著作目録

寳月　誠 教授
略歴

1941年 9 月26日　滋賀県彦根市で生まれる

1966年 3 月　　京都大学教育学部（教育社会学コース）卒業

1966年 4 月　　私立三重高等学校教諭

1967年 4 月　　京都大学大学院文学研究科修士課程社会学専攻入学

1969年 3 月　　京都大学大学院文学研究科修士課程社会専攻修了

1969年 4 月　　大阪府立大学教養部助手

1974年 4 月　　大阪府立大学教養部講師

1974年 9 月　　コネチカット大学客員研究員（1974年12月まで）

1978年12月　　大阪府立大学総合科学部助教授（1980年 3 月まで）

1980年 4 月　　京都大学文学部助教授

1987年 1 月　　京都大学文学部教授

1990年11月　　文学博士（京都大学）

1992年 8 月　　カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員（1993年 6 月まで）

1996年 4 月　　京都大学大学院文学研究科教授

2005年 3 月　　京都大学定年退職

〈所属学会〉

日本社会学会会員・関西社会学会会員・犯罪社会学会会員・社会病理学会会員

日本社会学史学会会員・American Sociological Association会員

寳月　誠 教授
著 作 目 録

(著書)

1.『逸脱の社会学』(大村英昭氏との共著) 新曜社，1979年 4 月
2.『社会学のあゆみ』(新睦人·大村英昭・中野正大・中野秀一郎氏との共著) 有斐閣，1979年 4 月
3.『暴力の社会学』世界思想社，1980年 1 月
4.『日常世界の虚と実』(石川実・大村英昭・中野正大氏との共著) 有斐閣，1983年 5 月
5.『薬害の社会学』(編著) 世界思想社，1986年 1 月
6.『社会病理』リーディングス日本の社会学第13巻 (大村英昭・星野周弘との共編) 東京大学出版会，1989年10月
7.『社会調査』(中道實・田中滋・中野正大氏との共著) 有斐閣，1989年12月
8.『逸脱論の研究』恒星社厚生閣，1990年 4 月
9.『シンボリック相互作用論の世界』(船津衛氏との共編) 恒星社厚生閣，1995年 9 月
10.『シカゴ社会学の研究』(中野正大氏との共編) 恒星社厚生閣，1997年11月
11.『社会生活のコントロール』恒星社厚生閣，1998年12月
12.『逸脱』講座社会学第10巻 (編著) 東京大学出版会，1999年 8 月
13.『シカゴ学派の社会学』(中野正大氏との共編) 世界思想社，2003年11月
14.『社会病理学の基礎理論』(松下武士，米川茂信氏との共編) 学文社，2004年 2 月
15.『初期シカゴ学派の世界』(吉原直樹氏との共編) 恒星社厚生閣，2004年 3 月
16.『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣，2004年 5 月
17.『逸脱研究入門——逸脱研究の理論と技法』(森田洋司氏との共編) 文化書房博文社，2004年10月

(学術論文)

1.「労働者階級における保守的傾向の問題」『ソシオロジ』第51号，51-79頁，1970年 8 月
2.「現実『問題』と認識主体——社会学研究のための基礎ノート」『社会科学論集』第 2 号，大阪府立大学社会科学研究会，1-29頁，1971年 3 月
3.「青年労働者の目標と阻害——状況圧力の問題」『大阪府立大学紀要』19巻 (人文・社会科学編)，55-73頁，1971年 3 月
4.「危機の診断——K・マンハイムの社会認識」『大阪府立大学紀要』20巻 (人文・社会科学編)，59-71頁，1972年 3 月
5.「逸脱行為の社会学的認識——序説的な覚書」『社会科学論集』 3 号，51－71頁，1972年 3 月
6.「ラベリング論の検討——その 1 」『大阪府立大学紀要』21巻 (人文・社会科学編)，61-78頁，1973年 3 月

7.「都市と退行行為」大橋薫・大藪寿一編『都市病理学』有斐閣，32-46頁，1973年5月
8.「逸脱行為の原因論（etiology）について」『社会科学論集』4-5合併号，63-83頁，1973年5月
9.「逸脱行動と裁量」岡村久雄編『政治社会学の視点』地球社，117-166頁，1976年4月
10.「逸脱行動と烙印論」中久郎・松本通晴編『現代社会の動態』アカデミア出版会，151-160頁，1976年4月
11.「逸脱行動論の課題について」『新しい社会学のために』9号，現代社会研究会，5-18頁，1976年4月
12.「青少年の自殺と他者の反応——看護婦の意識調査より」『少年補導』242号，大阪少年補導協会，242号，39-47頁，1976年5月
13.「ラベリング論の検討——その2」『大阪府立大学紀要』22巻（人文・社会科学編），21-33頁，1977年3月
14.「社会的反作用としての刑罰の意義」『犯罪社会学研究』2号，日本犯罪社会学会，1-21頁，1977年10月
15.「社会生活における相互確認」吉田民人編『社会学』日本評論社，174-191頁，1978年5月
16.「相互作用におけるレイベリングの影響」『社会学評論』第114号，日本社会学会，28-40頁，1978年9月
17.「逸脱行為の社会学的認識」『現代のエスプリ』No.135，至文堂，51-68頁，1978年10月
18.「社会病理とはなにか」大橋薫ほか編『社会病理学入門』学文社，1-12頁，1978年11月
19.「シンボリック相互作用論の課題」『季刊労働法』別冊第6号，総合労働研究所，83-108頁，1980年3月
20.「社会的相互作用と自他のアイデンティフィケーション」『社会学研究』41号，東北社会学研究会，1-32頁，1982年1月
21.「社会的相互作用論から見たキャリア分析——『ジャック・ローラー』の解釈の試み」『哲学研究』544号，京都哲学会，56-105頁，1982年4月
22.「暴力の生成過程」『現代のエスプリ』180号，至文堂，62-75頁，1982年7月
23.「ポスト・レイベリング論の時代か？——逸脱のドラマの社会生活への影響」『教育社会学研究』第39集，日本教育社会学会，5-17頁，1984年9月
24.「『相互作用論』のモデル序説——その1」『哲学研究』550号，500-535頁，1984年10月
25.「シンボリック相互作用論」新睦人・中野秀一郎編『社会学のあゆみ——パート2』有斐閣，82-108頁，1984年11月
26.「『相互作用論』のモデル序説——その2」『哲学研究』552号，21-72頁，1986年10月
27.「逸脱の社会的定義をめぐる問題——当事者主義から観察者の役割の復権」『現代の社会病理』日本社会病理学会，76-106頁，1986年11月

28.「ミード――自己論の立場」中久郎編『社会学の基礎理論』世界思想社，241-258頁，1987年4月
29.「レイベリング論から社会的相互作用論へ」新睦人・三沢謙一編『現代アメリカの社会学理論』恒星社厚生閣，147-175頁，1988年3月
30.「組織体犯罪の研究に向けて」『犯罪社会学研究』13号，12-17頁，1988年10月
31.「シカゴ学派のモノグラフの解釈――E. H. サザランドの作品をテキストにして」『社会学史研究』11号，日本社会学史学会，1-20頁，1989年6月
32.「人間の社会生活について――空間の分節化と逸脱を中心に」江原昭善編『サルはどこまで人間か――新しい人間学の試み』小学館，171-190頁，1989年11月
33.「シンボリック相互作用論」中久郎編『現代社会学の諸理論』世界思想社，112-138頁，1990年8月
34.「医療――医療社会の変貌とその制御過程」塩原勉ほか編『現代日本の生活変動』世界思想社，139-161頁，1991年1月
35.「社会的ルールの成立」木下冨雄・棚瀬孝雄編『法の行動科学』福村出版，1-21頁，1991年10月
36.「企業逸脱と社会統制の社会学的研究」『平成3年度科学研究費一般研究（C）研究成果報告書』（研究代表：宝月誠），1-51頁，1992年3月
37.「社会制御の考え方」『犯罪と非行』93号，青少年更生福祉センター，1-20頁，1992年8月
38.「診療場面において医師の直面する問題と対処方法」『平成7年度科学研究費一般研究（C）研究成果報告書』（研究代表：宝月誠），1-29頁，1996年3月
39.「逸脱理論における実証主義支配」北川隆吉・宮島喬編『20世紀社会学理論の検証』有信堂，137-156頁，1996年10月
40.「逸脱化についてのシンボリック相互作用論の視点」『犯罪社会学研究』23号，4-22頁，1998年10月
41.「暴力の社会学」所一彦ほか編『日本の犯罪学』第7巻，東京大学出版会，243-250頁，1998年10月
42.「自然主義的探究法の再検討――ブルーマーの方法論の問題点」『奈良女子大学社会学会学論集』6号，177-188頁，1999年3月
43.「科学的世界と修行――質的研究法を事例にして」『修行の研究』（平成11年度科学研究費基盤研究（A）研究成果報告書・研究代表：長谷正當），27-48頁，2000年3月
44.「『物語的社会学』の原点――トマス＝ズナニエツキ『ポーランド農民』第三部を中心にして」『社会学史研究』21号，39-48頁，2000年6月
45. "A Social World of Sociology in Japan" *The American Sociologist*, vol.31. no. 3 : pp. 5-14. (published by Transaction Periodicals Consortium), 2000, Fall
46.「シカゴ学派の社会認識――社会的世界論の展開」『シカゴ派の総合的研究』（平成12年度科学研究費基盤研究（B）研究成果報告書・研究代表：中野正大），27-41頁，2001年3月
47.「逸脱行動の生成に関わる諸要因」『京都社会学年報』9号，京都大学文学部社会学研究室，1-18頁，2001年3月

48.「逸脱行動の統合理論の構築」『平成13年度科学研究費基盤研究（C）研究成果報告書』（研究代表：宝月誠），1-53頁，2002年3月
49.「食の社会的世界とコントロール」『フォーラム現代社会学』3号，関西社会学会，9-17頁，2004年5月

（翻訳）

1.F. フリードソン『医療と専門家支配』（進藤雄三氏との共訳）恒星社厚生閣，1992年9月
2.J.ロフランド＝L.ロフランド『社会状況の分析』（進藤雄三氏との共訳）恒星社厚生閣，1997年1月
3.G. ラフリー『正統性の喪失』（監訳．訳者 大山小夜・平井順・高橋克己氏）東信堂，2002年7月
4.G. H.ミード『G. H. ミードプラグマティズムの展開』（加藤一己氏との共訳）ミネルヴァ書房，2003年12月

（共同研究）

1.『婦人一時保護施設入所者の経歴分析＜特集＞』（芦田徹郎・栗岡幹英・神原文子・中河伸俊・田中滋氏との共同調査報告）『ソシオロジ』第84号，社会学研究会，1-141頁，1982年7月
2.『婦人一時保護施設入所者の経歴分析――第2回調査』（黒田浩一郎・神原文子氏との共同調査報告）『昭和59年度科学研究費一般研究（C）研究成果報告書』，1985年3月
3.『高度医療と社会関係』（田間泰子・串田秀也・筒井琢磨・藤澤三佳氏との共同研究）『社会人間学研究報告』No.1，京都大学文学部社会学研究室，1-111頁，1990年3月

（エッセイ　2000年以降）

1.「シカゴ学派の一段面――ミクロからマクロへ、そして政策へ」『ソシオロジ』第138号，98-99頁，2000年5月
2.「犯罪社会学――逸脱論」AERA Mook No.70，『犯罪学がわかる』朝日新聞社，106-107頁，2001年6月
3.「『ソシオロジ』とわたし」『ソシオロジ』第150号，135-140頁，2004年5月
4.「逸脱をめぐる常識と科学知の間――『逸脱とコントロールの社会学』を刊行して」『書斎の窓』537号，有斐閣，28-31頁，2004年9月